

心をつなぐ芸術文化を世界へ

岩手大学教育学部附属中二年 高橋稀琳

私が考える盛岡の良さは芸術文化が盛んだ
ということです。盛岡は古くから芸術文化が
築かれ、「文化薫る街」とも呼ばれています。
明治初期頃から今も続く映画館通りは芸術文
化の象徴です。時代の流れと共に映画館の数
は減少しているもの、映画館通りは、現在
も映画を楽しむ人々の憩いの場となりていま
す。他には、夏の風物詩である「さんさ踊り

—

パレードも盛岡が世界に誇る芸術の一つで
す。昨年の人出は百四十万人を超える、世界一
の太鼓パレードはますますにぎわっています。
伝統の灯を守りつつ、さらに進化していくさ
んさ踊りは毎年多くの人を笑顔にし、盛岡を
盛り上げる重要な役割を担っています。一方、
伝統を継承した文化だけでなく、新しい文化
を取り入れる様子も見られます。「いしがき
ミニージックフェスティバル」です、観客数
が年々増加し、昨年は約七万九千人の人が

訪れました。盛岡の各地で音楽が奏でられ、街中が音楽に包まれます。日本各地から集ま
た人々が音楽という芸術を通じて一つとなり、
人と人の心をつなげています。言葉や生活文
化の壁を越え、人との絆が生まれる盛岡の心
を通わす特別な芸術文化は先人たちからの贈
り物であり、今度は私たちが継承していくか
ければならないものです。

次に私が提案する取り組みは双向での音
楽交流です。今、オンラインで通信する技術

が急速に普及し始めました。このオンライン
通信をコミュニケーションの手段として活か
した国際交流ができたらいいと思します。例
えば、さんさ踊りパレードを世界各地で同時
に行うことができたらいいです。世界各地で
さんさ踊りに参加できたらとしたら、その様子
をオンラインで映像と音で届けます。大きな
モニターとスピーカーを使い、八月の夜、一
緒にパレードします。きっと、さんさ踊りが
盛岡と世界をつなぐ架け橋になるはずです。

私がコミュニケーション力を高めるために
できることは新聞制作です。私の通う学校下
は新聞制作に力を入れています。学校内や身
近な社会に目を向け、自分の意見をまとめて発
信しています。同時に、他の生徒が書いた新
聞を読み、他者の意見や考え方につれてるところで
自分の視野が広がり、考え方を深まっています。
さればそれが異なる考え方を理解し合うことで人
ひととつなぐコミュニケーションにつなが
ります。ひとの関わりが制限されてい
ます。

今、文字によるコミュニケーションも重要
だと気付きました。だからこそ、新聞制作を
通して自分の考えを発信しつつ、他者の意見
を受信していくことで、コミュニケーション
力を高めていけたらと思います。

最後に盛岡と世界の架け橋の担い手になれ
よう、しっかり学校生活を送りたいと思
います。